

津田沼小学校の「わんぱくまつり」に参加しました 生徒と日本語教室学習者の楽しいひととき

津田敬吾（日本語教室部会）

12月21日（月）午後1時から3時まで津田沼小学校で「わんぱくまつり」が開催されました。日本語教室は「世界の人にあいさつをしよう」をテーマに外国人学習者と津田沼小の生徒との交流活動を行い、楽しく、有意義なひとときを過ごしました。

参加国は中国、フィリピン、タイ、ネパール、モロッコ、ブラジル、コロンビアの7ヶ国（計13名）でした。ほかに会場準備やお手伝いにボランティア18名が参加しました。

午後1時、にわかに私たちの会場の前の廊下が賑やかになりました。給食を済ませた生徒たちが教室を出ていろいろな催し物会場へ急ぎ出したのです。私たちの会場の前では、初めのうちは立ちどまって、「何をやっているのだろう」とおそるおそる覗き込んでいるような生徒たちが数多くいました。「お入りなさい」と呼びかけると照れくさそうに逃げていく子もいました。しばらくすると一人また一人と入って来て、程なく会場にコの字型に設けた各国の机の前が生徒たちで埋まり、その状態は催しの最後まで続きました。

生徒たちは入場と同時に「サインラリー用紙」を受け取り、順番に各国の机を回ってそれぞれの国旗シールを貼ってもらいました。またその時、「今日は」とか「有難う」の言葉や話をした人の名前などを母国語の文字で書いてもらいました。まだ見たことのない字が、それも中には右からの横書きで書かれるのを見てびっくりしている子もいました。

各国の挨拶ややさしい言葉も教えてもらいました。また、各国の素晴らしい景色の写真や綺麗な織物、玩具などを見ながら説明を聞きました。中国のキョウ・チョウさんの演武を見たときにはその動きの激しさ、迫力には生徒たちもびっくりしていました。

生徒たちはみんな楽しそうに時間を過ごしていました。ただ私は気のせいかな、来場者は上級生より下級生が、また男子生徒より女子生徒の方が若干多いような印象を受けました。参加した外国人学習者も終了後、「楽しかった、日本の子どもたちは可愛かった」と述べていました。今回の経験が外国人学習者の地域社会への融和の一助になればと願っています。



ナラシド♪も来ました



「お入りなさい。どうぞー」



サインラリー用紙



「それはなあに？」



終了後、参加者のみなさんと「お疲れさま〜」